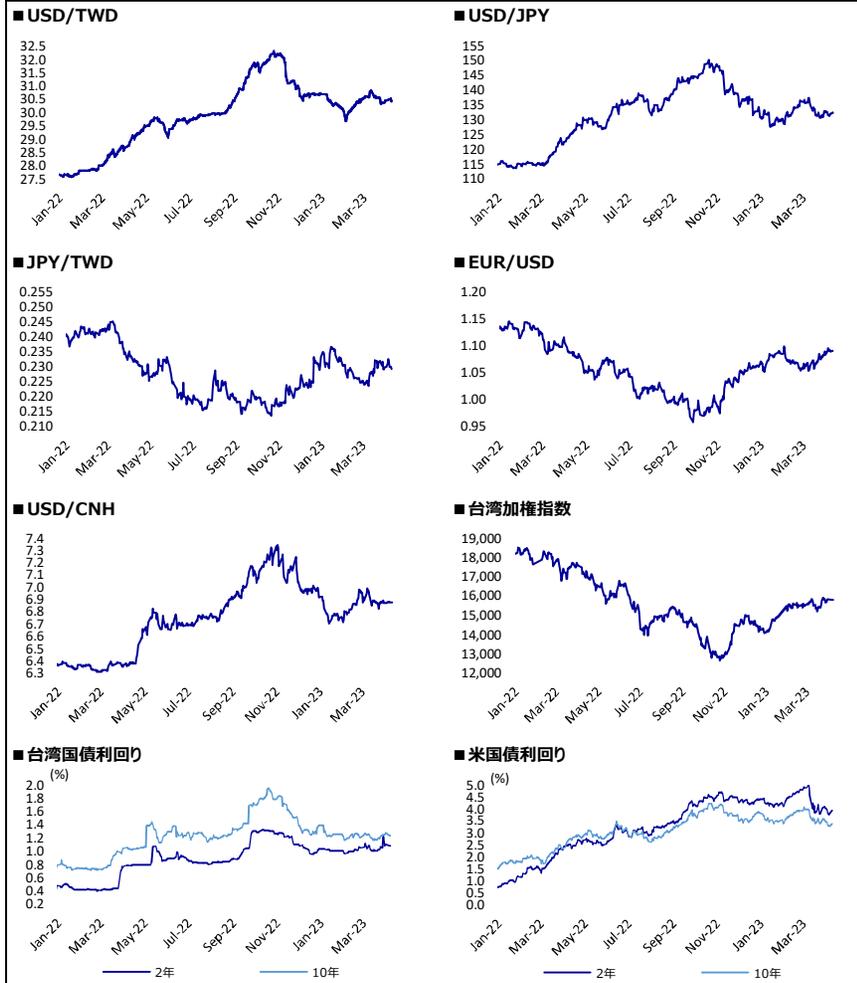


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上に往って来いの展開。連休明けの週初4/6は30.500とギャップアップしてオープン。連休中に米経済指標の悪化を受けた米株安や、蔡総統が米国でマッカーシー米下院議長と会談したことから地政学リスクが意識され、台湾株が下落すると台湾ドル売りが優勢となり、30.540まで上昇。しかしその後は輸出企業のドル売りも散見され、上値は押さえられた。4/7は夜に米雇用統計の発表を控えているものの、外資の流入に加え、輸出企業もドル売りに入るとじりじりと下落し、一時30.430をつけた。最終的には先週比ほぼ変わらずの30.446で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は50.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初4/3は133.00でオープン後、OPECプラスが減産を発表し、原油高からドル買い・円売りとなり、133.75円まで上昇。しかし、米3月ISM製造業景気指数が市場予想を下回ると米金利は低下、132円台前半に反落。4/4はドルが買い戻され一時133円台に戻すも、米2月JOLT求人件数が軟調な結果となり、労働市場の緩和が意識され米金利低下とともに131円台後半に反落。4/5も米3月ADP雇用統計、米3月ISM非製造業景気指数が弱い結果となるとドルは売られ、一時130.64円に下落した。4/6は翌日に米雇用統計を控える中、ポジション調整の動きから131円台後半まで買い戻された。4/7は米3月雇用統計が発表されると内容は労働市場の堅調さを示すものであったが、週内に発表された米経済指標がいずれも弱い内容であったことから雇用統計も弱い内容になることが警戒されていたためか、米金利上昇、ドル買いで反応。132円台前半まで上昇するも、イースター休暇で海外市場参加者が少なく、買いは続かず、最終的に先週比0.5%ドル安円高の132.15で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.400-30.650
今週は底値が堅いと見込む。米雇用統計が堅調であったことから、ドル売りが一服するであろう。ただし、米3月CPIの発表を控えており、予想以上に低下した場合は、利上げ観測が後退し、ドルが売られやすくなるため注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.00-134.00
今週も米経済指標に左右される展開となるであろう。先週発表された経済指標は弱い内容が続き、ドルが売られやすかったが、週末に発表された米雇用統計の結果は堅調であり、ドルが買い戻された。今週は米3月CPIの発表、FOMC議事要旨等の発表を控えており、内容次第ではボラティルな展開となるであろう。

今週の予定

4/10 (MON)	
4/11 (TUE)	台湾3月CPI、台湾3月貿易収支
4/12 (WED)	米3月CPI、FOMC議事要旨
4/13 (THU)	米3月PPI
4/14 (FRI)	米3月小売売上高、米3月鉱工業生産、米4月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。